

『何事もやってみる！大人も子供も体と心を動かして』

村松幼稚園

×

ぐうたら村



●はじめに

今年度村松幼稚園に異動した。昨年先輩教諭がコンポスト作りをしていた。私は最初はコンポスト作りの意味をよく知らずにいた。そのためより学びたいと思ったときにぐうたら村でのゼミがあることを知り、参加することになった。

ぐうたら村では「こども真ん中」であると同時に「いのち真ん中」であるということがとても心に響いた。いのちといっても様々にあり、人にもいのちがあり、自然にもいのちがある。自分にできることは何かを考え、探りながらどんなことでもまずはやってみて、実践して「いのち」について考えていこうと思った。

●自園について

茨城県東海村にある園児数約140人の園である。昨年度の夏に新しく園庭の真ん中に築山を作ったり、本ゼミ2期生の方から学んだことを先輩が取り組んだり（コンポスト作りなど）していた。周りに自然が少なく、園庭に虫たちが集まるような自然を作ったり、園の環境メンバー5人を中心に園庭改革に取り組んだりしているところである。

●ぐうたら村に行ってみて！

森や畑でのフィールドワークを経て、1つ目の気づきはコンポストがあることでいのちが循環していることである。今まで捨ててしまっていた野菜の残りや芯、ヘタをコンポストに入れて堆肥にしたり、落ち葉を積むことで堆肥になって畑の土になったりしていることが分かった。1回目のゼミを経験し、野菜くずをごみと思ったり、落ち葉に対して抱かなかった感情を感じたりすることができ、どんなものにもいのちがあり、大切な資源であると自分の考えを変えることができた。ぐうたら村で学んだことをまずは職員に伝えていった。すると以前は園でも落ち葉を捨ててしまっていたが、職場の方も「コンポストに入れる？」等聞いてくださり、私だけでなく園全体の意識が変わったように思えた。

もう一つの気づきは体で感じることの大切さだ。大人の価値観で決めつけるのではなく、子供も大人も実際に触ってみる、においを嗅いでみる、手で掴んでみるなど体験することでその土の柔らかさやにおいの違いに気づく。そしてそれぞれ感じ方が違うのでその面白さに共感したり、子供たちと対話したりしていくのが良いことに気づかされた。



カブトムシの土  
のにおい！

●私の実践 ①コンポスト作り

春に作ったコンポスト



菌糸!?



「あったかい！」

段ボールコンポスト



園庭の砂の上に段ボールを敷いたコンポスト。  
ミミズや幼虫が現れる。いのちが生まれていた。

錦糸が出てきて落ち葉や食べ物の残りなどの資源が  
分解されて土に戻ることを実感した。

今年の  
コンポスト



大型コンポスト



仲間と協力して!



完成 ✨

園には環境メンバーがいて協力して大型  
コンポストを作り、たくさんの草や食べ物の  
残りなどを入れて時間をかけながら分解するの  
を見ていった。園に5か所以上作り、変化の違いを  
観察した。



## ●①結果

夏休みにコンポスト作りを行うと子供たちも「コンポストを作りたい」と年長組と一緒に新たにコンポストを作った。名前は「むしむしレストラン」とした。園には約6個のコンポストがあり、小さいコンポストはやはり分解が早く、大きいコンポストは時間をかけて分解が進むことが分かった。コンポストで作られた堆肥は花壇の肥料として利用したり、コンポストの違い（場所・大きさ）の変化を見たりしていった。



コンポスト  
堆肥入れて



## ●私の実践・結果 ②ネイチャーエリアの拡充

ネイチャーエリアを作り、草をたくさん生やしていった。今まで少なかったバッタやミミズ、カマキリなどたくさんの虫が集まってきて夏休み中大人がとてもワクワクしていた。子供たちが登園すると子供たちも大人と同じように虫がたくさんいることにワクワクしていた。虫に興味のある子もあまりなかった子も先生や友達に刺激を受けて見たり触れたりする姿が見られた。大人がワクワクしていれば子供もワクワクすることが改めて分かったし、このワクワクを共有できることが循環につながっていくと感じた。そして人が生きる中で虫も生きていることが実感できる体験だと感じた。

冬になると草が枯れて虫もいなくなってしまうので、春から再び草を生やせるだけ生やしてみようと思う。虫が住処を作るのか、どんな虫が来るのか、どんな花が咲くのかを子供たちと楽しみにしながらいのちの循環、いのちの大切さも子供たちと一緒に考えていきたい。



## ●私の実践 ③園内研修「理想の幼稚園を語り合って」

ぐうたら村のゼミ2期生であり、水戸市わかな保育園に勤めている平野先生を招いて園庭環境について話を聞いたり、理想の幼稚園を語り合ったりしていった。





園全体で理想を語り合う  
 ことで一人一人の思いに  
 気づけてみんなで作り上げて  
 いくことができると実感した。

●私の実践 ④地域との交流

浅川建設, 宇留鷲材木は園の先生から教えてもらい, 無償で材木を受け取った。また東海村のお弁当屋のおそのえさんから米ぬかかもみ殻をいただき, コンポストに使っていった。さらに東海村の橋本農園さんをお呼びし, 園庭についてのアドバイスをいただいた。地域の方とも協力しながら園庭環境をより良いものにしていきたいと考える。

宇留鷲材木

浅川建設



●③④結果

理想の幼稚園を語り合うことで一人一人の考えや思いに触れることができ, 環境チームだけでなく園全体でどのように園を改革していくか自分事として考えるきっかけとなった。これを機にどのように理想を現実にしていくかを環境メンバーで話し合っていた。

さつまいも掘りをした後のツルと木材を使って花壇のバイオネストづくりをしていった。まずはやってみることを大切にしが, 強度が弱く, 壊れてしまった。次回行うときには別の方法を模索していきたい。試行錯誤することも大切だと思った。



築山を森のようにしていこうという意見も出ていて、まずはタイヤを埋めることになった。新しい場所ができると子供たちは目を輝かせながらタイヤ階段で遊んでいた。新しいもの、やってみたいと思うものがあれば、子どもたちは惹かれ、興味がわくことが改めて分かった。大人が動いてもいいし、子どもたちからの発信でも体が動けば心が動いていくと思った。

木を植えたり、いわだれそうなどを植えたりしてより自然豊かにしていくのが今後の課題であり、どのように子供たちがワクワクするような場を作っていくかは今後も考えていかなければならない。



#### ●さいごに

コンポスト作りでは実際に大人が動くことで子供も興味を持ってコンポストを作りたいという気持ちになっていた。子供たちが自分たちで作ったことで愛着をもってコンポストを大切にしようとする気持ちを感じた。また堆肥に触れることであったかさを感じたり、においを感じたりして五感を通して感じる事ができた。そして幼虫やミミズなど土の中で生きる生き物にも気づき、いのちを知ることができた。

そしてどんなものにもいのちがあり、自分の体で触れて、感じる体験が大切だと思った。自分の体で感じたことは自分にしかわからないと思うので子供たちにも自分の体で感じる経験を大事にしてほしいと思った。そしてその感じたことを子供と対話したり、一緒に感じたりしていきたい。大人が動けば子供も動くし、園全体が動いていく。そして体が動けば心も動き、すべてが動いて循環していくと思った。

園内研修をしたことで以前は捨ててしまっていた落ち葉をコンポストに入れようと他の職員から声が聞けたり、お家からバナナの皮やミカンの皮などを大人も子供も持ってきてくれたりして一人一人の意識の変化を感じた。何より私自身の考えがぐうたら村に行ったことによって変わった。今まで捨ててしまっていたジャガイモの皮なども土にかえそうと思ったり、お茶っぱの残りも堆肥にしようと考えたり意識の変化があった。

今回ぐうたら村で感じたことを他の職員に伝えたり、園で実践したことをさらに今後どのようにしていくかを考えたりしながら園の仲間と協力してよりよい園づくりに努めていきたい。そして何事もやってみることを大切にして体も心も動かしていきたい。

